同時資料提供

大阪科学･大学記者クラブ

平成 22 年 5 月 26 日
大阪市立自然史博物館
電話 06-6697-6222
担当：主任学芸員 塚腰　実
学芸員　志賀　隆

特別陳列「三木 茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」を開催します

大阪市立自然史博物館は、**平成 22 年 7 月 24 日(土)から 9 月 20 日(月・祝)**まで、本館２階イベントホールにおいて、**特別陳列「三木 茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」**を開催します。

元大阪市立大学教授である三木茂博士（1901ー1974）は水草研究および植物化石の研究において大きな功績を残しました。特に 1941 年には、メタセコイアの化石を発見し、博士が復元したとおりの現生のメタセコイアが中国で発見され話題になりました。また、イヌタヌキモやネジレモなどの新種の水草を発見し、日本で初めての本格的な水草の図鑑である「山城水草誌」を出版し、古生物学と植物学の発展に尽力しました。

三木博士は大阪市立自然史博物館友の会の前身である大阪自然科学研究会会長を務めるとともに、当館の普及行事や友の会機関誌 Nature Study の記事の執筆など、当館の自然史科学の普及活動に貢献しました。博士の逝去後、植物化石や水草の標本は当館に寄贈され、約 36000 点の標本が「三木茂博士コレクション」として収蔵されています。

本年は三木博士がメタセコイア化石を発見して 70 年目を迎えます。この機会に、特別陳列**「三木 茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」**を開催し、博士が行った研究をわかりやすく紹介するとともに、当館が収蔵している「三木茂博士コレクション」を展示します。

また、平成２２年８月３日（火）から５日（木）には「第３回国際メタセコイアシンポジウム」、８月 21 日（土）には「水草研究会」が当館で開催されます。これらの学会は、世界または、日本の古生物学、植物学の研究者を招いて行われ、ポスター発表については一般公開されますので市民の皆様にも研究の最前線をご覧いただけます。

本展によって、多くの人々に水草やメタセコイアを始めとする植物への関心を深めていただき、自然観察や植物の歴史を考察する機会としていただければ幸いです。

【取材について】

※ 会期中および事前に取材を希望される方は、別添ファイルの取材申請書を Fax にてお送りください。

※ 広報用写真をご用意しています。希望される方は別添ファイルの広報写真申込書を Fax でお送りください。

１　開催概要

(1)　名　称　特別陳列「三木 茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」
(2)　会　期　平成２２年７月２４日（土）ー９月２０日（月・祝）
※休館日 毎週月曜日（ただし、休日の場合は翌日）
※開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）
(3)　会　場　大阪市立自然史博物館　本館２階イベントスペース
所在地：〒546－0034　大阪市東住吉区長居公園１－23
最寄駅：地下鉄御堂筋線長居駅3号出口から東へ800m
JR阪和線長居駅から東へ１ｋｍ
(4)　主　催　大阪市立自然史博物館、第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会、水草研究会
(5)観覧料　自然史博物館本館入館料　大人３００円、　高校・大学生２００円
※中学生以下、障害者手帳等持参者（介護者１名を含む)、大阪市内在住の 65 歳以上の方(要証明）は無料。30 名以上の団体割引あり。

２　展示構成

(1)三木博士の略歴

(2)三木博士が研究した水草

(3)メタセコイアの化石

(4)三木博士の研究の意義

(1)三木博士の略歴
1901 年　香川県木田郡三木町に生まれる
1918 年　香川県立木田農林学校（現香川大学農学部）卒業
1921 年　盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）卒業、石川県立農林学校教諭
1925 年　京都帝国大学理学部植物学科卒業と同時に植物学科助手
1937 年　「山城水草誌」出版
1938 年　京都大学学位論文「日本における上部鮮新世以来のフロラ及び気候の変化と現在のフロラ組成」
1939 年　京都帝国大学講師
1941 年　「第三紀以降の東アジアのフロラ変遷（英文)」によりメタセコイア属の設立
1947 年　大阪学芸大学（現大阪教育大学）教授
1949 年　大阪市立大学理工学部教授
1951 年　朝日文化賞の受賞
1964 年　大阪市立大学退官、武庫川女子大学教授
1974 年　逝去

(2)三木博士が研究した水草
三木博士は、その研究人生の初期、1920ー1930 年代にかけて、日本および周辺地域の水辺、水生植物を精力的に調査し、日本の水草研究の基礎を築きました。なかでも、京都の巨椋池や深泥池の生態学的研究や、初期の研究の集大成ともいえる「山城水草誌」は、当時の日本水草誌とも言え、現在でも重要な資料となっています。ここでは、三木博士の収集した水草標本、名前をつけた多くの植物を紹介するとともに、博士の水草研究の一端を紹介します。また、今回の展示では、新たに所蔵が確認された、三木博士のスイレン科植物の標本を初公開します。

(3)メタセコイアの化石
公園や街路樹として身近に見ることができるスギ科植物のメタセコイア。メタセコイアは、中国原産ですが、その発見には、日本の古植物学者三木茂博士が深く関わっています。三木博士は、1941年にセコイアやヌマスギとされていた化石の中から、未知の植物を見出し、メタセコイアと命名し発表しました。当時、メタセコイアは、すでに絶滅したと考えられていました

ので、1945年、中国湖北省の山間部で生きているメタセコイアが発見されたときには、「化石が生きていた！」と世界的な話題となりました。1948年、アメリカは中国に調査隊を送り、種子を採取し自国へ持ち帰りました。1950年、そのアメリカから、100本の苗木が、三木博士が結成したメタセコイア保存会へ贈られてきました。この100本の苗木は日本各地に植えられ、成長が研究されました。さらに、メタセコイア保存会では、これらの木を挿し木で殖やし、それを全国に配布したので、現在では、日本各地でメタセコイアが身近に見られるようになりました。今回の特別陳列では、三木博士がメタセコイアを発見する基になった標本、三木博士が発見したオオミツバマツなどの植物化石を展示します。

〇三木博士の研究の意義

三木博士は徹底した標本収集と詳細で解剖学的な観察、現生植物の生態観察に基づいて研究を進めました。三木博士のメタセコイアの発見は、三木博士自身が語っているように、葉の付き方や冬芽の有無など基礎的な観察で成し遂げられました。三木博士の化石や水草の研究内容や研究姿勢は、三木博士が収集した標本を通して、見て感じることができます。今回の特別陳列は、多くの人々の水草やメタセコイアをはじめとする植物への関心を深めて、自然観察を行ったり、植物の歴史について考えたりする機会となるでしょう。

３．　関連した学会について

第３回国際メタセコイアシンポジウム

メタセコイアとそれに関連した自然史科学を議論する国際会議。この国際メタセコイアシンポジウムの第1回（2002年）は生きたメタセコイアが発見された中国湖北省で開催され、第2回（2006年）はこの生きたメタセコイアを持ち帰り、増殖して世界に配布して研究の基礎を作った R.W.Chaney博士に敬意を表してアメリカで行われました。そして第3回がメタセコイア化石発見の地、日本で開催されることになり、その中でも、メタセコイア発見の元となった三木博士の研究した化石標本をすべて収蔵している大阪市立自然史博物館はで開催することになりました。大阪市が世界に誇る標本と研究を国際的に発信する絶好の機会となります。ポスター発表は公開で行われます。関連行事（下記参照）として、化石および現生のメタセコイアの見学会、普及講演会を自然史博物館などとの共催で実施します。

日時：８月３日（火）午後ー５日（木）
８月３日（火）午後：受付
８月４日（水）：口頭発表・ポスター発表
８月５日（木）：口頭発表・ポスター発表
場所：自然史博物館講堂（口頭発表）、ナウマンホール（ポスター発表）
その他：ポスター発表は一般公開します。口頭発表は英語で行われ、聞くためには国際学会の参加登録（有料）が必要です。申込み方法・研究発表の分野は、ホームページ http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/meta/meta-top-Jap.html　をご覧ください。

水草研究会

水草に関する研究および知識普及を目的とした研究会。大学関係者以外にも、民間の調査会社関係者、多くの水草愛好家が所属しています。会員数は約400人。第32回全国集会を大阪市立自然史博物館で実施予定。記念講演会、口頭発表、ポスター発表は公開して行われます。
日時：８月21日（土）午前11時30分ー午後５時
場所：自然史博物館講堂（口頭発表）、ナウマンホール（ポスター発表）
その他：口頭発表およびポスター発表をすべて一般公開します。

４．関連イベント

■メタセコイアの見学会

2010 年は三木博士が化石をもとにメタセコイアを発見してから 70 年目を迎えます。大阪市立大学理学部附属植物園で現生のメタセコイアを他のスギ科植物と比較しながら観察します。次に、滋賀県の「みなくち子どもの森自然館」と野洲川河床でメタセコイアの化石を観察します。
日時：７月 24 日（土）午前９時ー午後４時 30 分
場所：大阪市立大学理学部附属植物園、みなくち子どもの森自然館、野洲川河床、集合は京阪京都線枚方駅、解散はＪＲ草津線甲西駅の予定。
対象：小学生以上（小学生には保護者同伴が必要）
定員：24 名

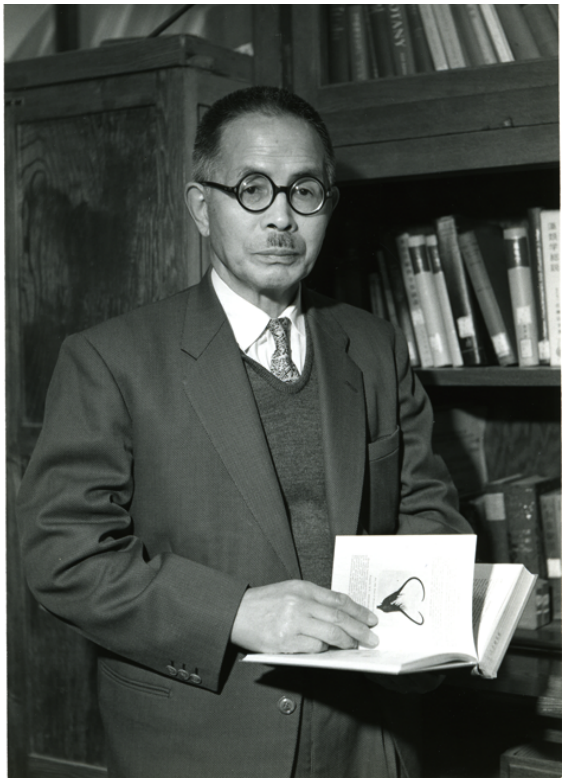
参加費：大人 2,200 円、中学生・小学生 1,800 円（入園料、入館料を含む）。
申込み：往復はがき、または電子メール（gyouji@mus-nh.city.osaka.jp）に「メタセコイアの見学会に参加希望」と明記の上、参加者全員の氏名、年齢、住所、電話番号、返信連絡先（往復はがきには返信の宛名）を書いて、6 月 27 日（日）までに届くように、自然史博物館普及係に申し込んでください。自然史博物館ホームページからでも申し込めます。
その他：・ 貸し切りバスで移動します。
・ 集合地までと解散地からの交通費は別途必要です。
・ 応募者が 19 名以下の場合は中止します。
・ 雨または増水時は野洲川河床の観察は中止します。
・ 抽選の結果や持ち物などの詳しい案内は返信でお知らせします。
主催：第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会・日本地質学会近畿支部・大阪市立大学大学院理学研究科・みなくち子どもの森自然館・大阪市立自然史博物館

■普及講演会「メタセコイアと地球環境の歴史」
スギ科の樹木、メタセコイアは、三木茂博士によって日本の化石で命名された後、中国で生きている木が見つかったことと、中生代から姿を変えていないことから「生きている化石」と言われています。メタセコイアやそれに伴う化石を調べることで、地球環境の変化の中でのメタセコイアの繁栄と絶滅の歴史がわかります。
日時：7 月 31 日（土）午後 1 時 30 分ー3 時
場所：大阪市立自然史博物館　講堂
講師：百原　新氏（千葉大学園芸学部准教授）
対象：どなたでも参加できます（小学生以下は保護者の同伴が必要）。
申込み：不要
参加費：無料（ただし、博物館入館料が必要）
主催：第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会・大阪市立自然史博物館

■長居植物園のメタセコイア観察会
長居植物園には新生代の古第三紀・新第三紀の森を復元したエリアがあります。そこでメタセコイアを他のスギ科植物と比較しながら観察します。
日時：７月 31 日（土）第１回午前 10 時 30 分ー11 時 30 分、第２回午後３時 30 分ー４時 30 分（１回目、２回目ともに同じ内容です。）
場所：長居植物園
集合：自然史博物館玄関前　ポーチ　第１回午前 10 時 30 分、第２回午後３時 30 分。
申込み：不要。どなたでも参加できます。
参加費：無料（ただし植物園入園料が必要）
その他：暑いので熱射病対策を各自でお願いします。
主催：第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会・大阪市立自然史博物館・大阪市立長居植物園

【 問い合わせ 】
大阪市立自然史博物館
〒546-0034　大阪市東住吉区長居公園1-23
TEL　06-6697-6221　FAX　06-6697-6225
URL　http://www.mus-nh.city.osaka.jp/
※関連イベントについては、大阪市立自然史博物館、地史研究室の塚腰あてにお問い合わせください。

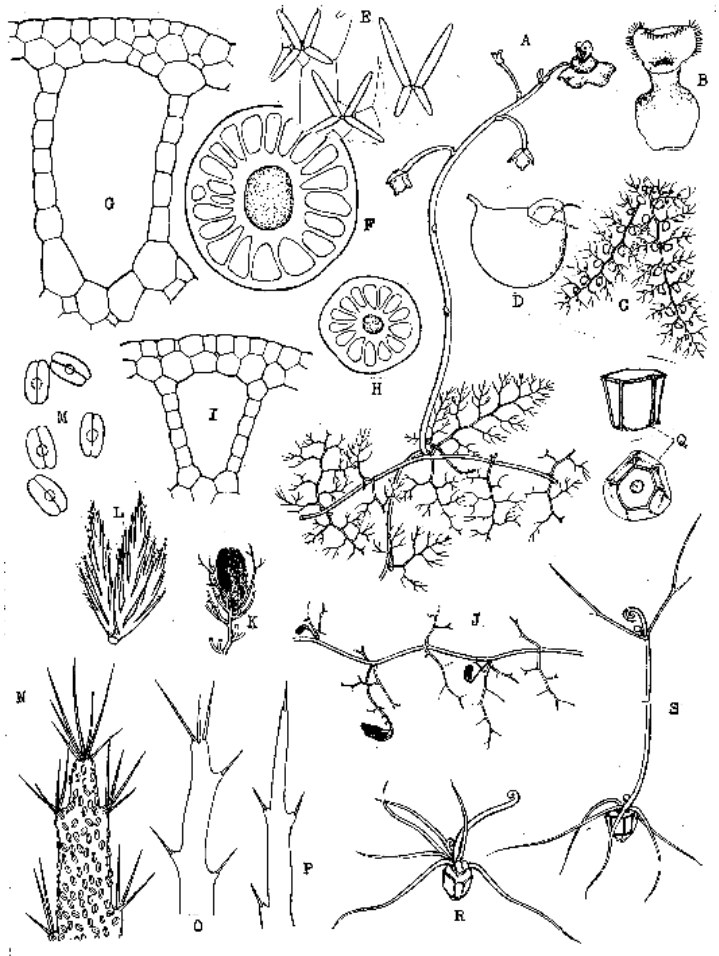
広報用写真



1.三木　茂博士（1964 年大阪市立大学の研究室にて）。

2.メタセコイア化石発見の基になった標本。圧縮化石のプレパラート標本。大阪市立自然史博物館所蔵。スケールのメモリは 1cm。

3．オオミツバマツ化石発見の基になった標本。圧縮化石のアルコール液浸標本。大阪市立自然史博物館所蔵。スケールの目盛りは 1cm。



4.三木博士が命名したイヌタヌキモのスケッチ。山城水草誌より。